

私立 阪南大学

取組名称 阪南コネクションの構築によるキャリア教育及び就職支援の強化

取組担当者 副学長 足立 照也

1. 本学の概要

阪南大学は1965(昭和40)年4月に設立され、「意欲と自主性に満ち、総合的な分析・判断能力をもち国際化・情報化時代に活躍できる人間性豊かな人材を育成すること」を目標とし、あわせて地域社会の要望と課題に応え、その発展に貢献している。

現在は、本キャンパスに経済学部経済学科、流通学部流通学科、経営情報学部経営情報学科が、南キャンパスには国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科、国際観光学科がある総合大学であり、約5,000名の学生が学んでいる。

本学では、意欲と自主性に満ち、総合的な分析判断力をもって、国際化・情報化時代に活躍できる人材を育成するために実学教育を教育理念としており、その実現のため、入学前より積極的に「入学前教育プログラム」を実施し、入学後も卒業時点の目標の設定及びその達成の手助けとなる実学実践のキャリア支援に力を注いでいる。

また地域の企業等に蓄積された実績・情報を大学で吸収し、大学に蓄積された知的財産と合体させることにより理論化し、授業や社会人教育への還元を目的に、寄付講座・公開講座などを実施している。さらに学生の海外派遣やインターンシップ教育、情報処理教育等、国際化・情報化に対応した多様な学習環境の充実にも力を入れている。

2. 本取組の概要

本取組は、キャリア教育を生涯を通じた持続的就業力の育成を目指すものと位置づけ、大学・産業界・地域社会を結ぶ「阪南コネクション」を構築することによってきめ細かなキャリア教育と就職支援の実現を目指すものである。実学教育を重視する本学では、8年前から「就職に強い大学」を標榜し、キャリア教育、就職支援、資格取得支援の三本柱によるキャリア支援プログラムを展開し、着実な成果を上げてきた(図

1)。この実績のもとに就職支援体制をさらに拡充するため、次の2項目を実行する。

(1) 大学(教職員・同窓生・保護者)、産業界(関西経済連合会や中小企業家同友会)、地域社会(松原市等周辺都市)とのネットワークを構築し、キャリア教育科目の拡充(阪南コネクション総合講座)と学生の就職支援に活用する。

(2) 就職相談の強化、就職未決定者や内定取消者への迅速な対応、就職情報の提供、土日や休業期間中の相談体制の確立等キャリアセンターの事業を強化する。

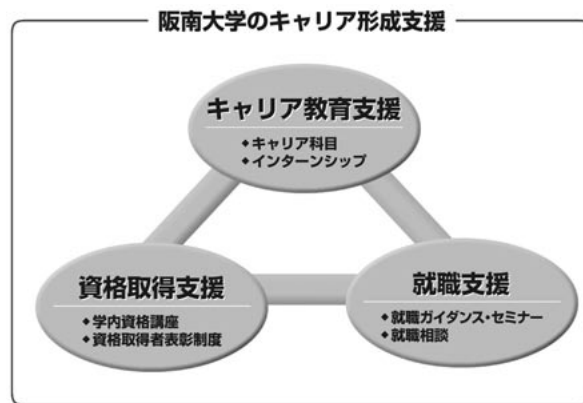


図1 キャリア支援プログラム

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

本取組においては、大学を核に産業界や地域社会とのネットワーク(阪南コネクション)を構築することにより、その知的・人的資源を活用して学生の心のケアを含めた就職相談、就職情報提供の充実を図る。また、実学実践の観点から教育課程に配置するキャリア教育科目をさらに拡充することを通じて、学習意欲、自主性、総合的な分析判断能力の向上等の教育力を高めることを目的としている。

(2) 達成目標

本学では8年前からキャリア教育を導入し、キャリア支援プログラムを展開することによって、着実な成

果を上げてきた。例えば、就職するために必要な能力・資質を養成することを目的としている1年次配当の「キャリアデザイン」、2年次配当の「キャリアアップ」等のキャリア教育科目においては経済産業省の社会人基礎力のプログラム等を取り入れることにより、実際に社会に必要な能力・資質を養成している。本取組では、このキャリア教育をさらに推進するために産業界や地域社会との連携からなる「阪南コネクション総合講座」をキャリア教育科目として開講し、構築されたネットワークを有効に就職支援の強化に活用する。具体的には、①キャリア教育科目の受講者数の増加、②在学生の学習支援・卒業生就職支援データベースの登録者数の増加、③就職相談件数の増加、④産業界との連携（提携企業）による求人件数・就職者数の増加等、これらの達成を図ることを目標とする（図2）。

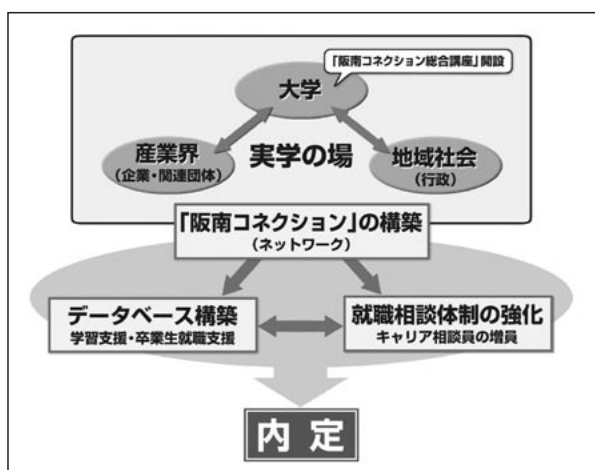


図2 阪南コネクション（ネットワーク）

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

(i) 阪南コネクション総合講座の開設

本取組では、生涯を通じた持続的就業力の育成を目指すものと位置づけ、大学・産業界・地域社会を結ぶネットワークを構築することで、きめ細かなキャリア教育と就職支援の実現を目指し、実学教育を重視したキャリア教育科目を拡充する。具体的には大学、産業界、地域社会とのネットワークを構築し、2010(平成22)年度から「阪南コネクション総合講座」を開講する。この取組を展開する上で、初年度(2009(平成21)年度)は準備段階として大学を核に産業界や地域社会と連携するためのネットワーク作りを行う。

産業界は企業をはじめ、大阪府中小企業家同友会等

の協定先との連携を図る。また、地域社会では松原市等行政との連携を深め、総合講座開設のためのネットワーク「阪南コネクション」を構築する。

2010(平成22)年度からは本格的にこのネットワークを生かした「阪南コネクション総合講座」を正課授業(単位認定)として開講する。

「阪南コネクション総合講座」は低学年の学生を対象としており、産官学連携のネットワークを生かした講義(理論)と実習(フィールドワーク)を融合させた新たなキャリア教育科目である。学生が直接企業や行政等の産業界や地域社会の中で実習を行うことで、行動力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力等の社会で必要となる力を養成することが可能となる。例えば、学生はいくつかのグループに別れて調査テーマを設定し、各グループは本学とコネクションのある企業を訪問し、経営者をはじめ企業関係者に調査(インタビュー)を行う。そこから企業と学生(自分)の関係性(結びつき)を理解し、学生(自分)が現実とのギャップを感じることで、行動力やコミュニケーション力などの必要性に気づくことになる。さらに、こうした実習体験から教養科目や専門科目の必要性も感じることで、学習意欲、自主性、総合的な分析能力の向上等の教育効果が期待できる(図3)。

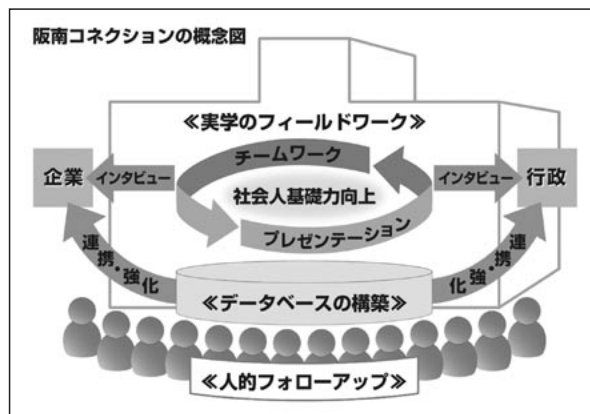


図3 阪南コネクション総合講座

(ii) 学生の利便性が高いデータベースの構築

初年度(2009(平成21)年度)は学生にとって利便性の高い在学生の「学習支援データベース」及び「卒業生就職支援データベース」を構築し、それらを学生が活用することで、就職支援の強化を図る。学習支援データベースは3年次生を対象にして、Web上でSPIなどの筆記試験対策が利用できる。具体的にはWeb上でSPI2、CAB、GAB、クレペリン、適性適職診断、一般常識、ビジネスマナーなどを実施して選考対策に活用できる。またこのデータベースは受験履歴等を自己管理することができ、学生の弱点を重点的に克服す

(3) 外部評価は、企業や地域社会の有識者からなる委員会による評価を受けることにより、厳格かつ公正で客観的な評価体制を構築する。

6. 本取組の実施計画等

本取組では、初年度（2009（平成21）年度）は次の項目を行う。

(1) 阪南コネクションの構築を行う。大学（教職員・同窓生・保護者）、産業界（大阪府中小企業家同友会等）、地域社会（松原市等周辺都市）との連携方法等について検討を行い、各界との調整を行う。

(2) 阪南コネクション総合講座開設のための準備を行う。講座の内容及び講師の調整を行いシラバスを作成する。

(3) 在学生の学習支援・卒業生就職支援データベースを構築する。Web上で在学生在が筆記試験対策等を行える環境を整え、OB、OGの就職情報と求人情報を関連づけた就職斡旋を行う。

(4) キャリア相談員や卒業生による相談員を増員し、内定取消しや就職未決定の学生に対応する。キャリア相談員1名と卒業生相談員2名を増員する。

(5) 阪南コネクションを活用した企業提携を推進することで、提携企業への就職者を増強する。

(6) 2年目（2010（平成22）年度）以降は、同就職支援データベースを完成させるとともに阪南コネクション総合講座を開設し、本取組を推進する。

これらの取組をさらに充実・発展させ、キャリア教育と就職支援の充実・発展を図る。